

当事者としての体験から 教育現場での合理的配慮に求めること

2017.11.17(金) 奈良女子大学

講師: 東田愛子

はじめに・・・

- 私がこれから話することはほんの一例にしかすぎません。ヒントになればと思って話していますが、丸々使えるものではないということを頭において話を聞いていただけますようお願いいたします。
- 障がい者100人いれば100通りのやりかたがあります。
- テーマはまじめですが、私自身、堅苦しい話ができる人ではありません。ぜひとも気楽に話を聞いていただければと思います。
- 笑いがこらえられないときは我慢をせず笑い飛ばしてください。

よろしくお願いいたします。

講師紹介

東田 愛子(ひがしだ あいこ)

- 1982年奈良県生まれ奈良県育ち
- 最終学歴は公立高校卒業です。
- 今の職業は高齢者の介護職です。
- 2008年に自閉症とADHDの診断を受けました。
- 現在は夫と中学生の娘と3人で暮らしています。
- 働きながら当事者会を2つ掛け持ちでスタッフしたり、講演やテレビ出演などで発達障害の啓発活動を精力的にこなしております。

あいちゃんのいちにち

発達障害と診断されている小学生の女の子です。

あいちゃんの一日の生活をまずはご覧ください。

* 私を含め複数の方の体験をもとに作ったモデルケースです。

あいちゃんってどんな子？

＊今回は私の体験にプラスして、現在小学生から大学生の当事者様にインタビューをしたものをもとに次のようなモデルケースでお話させていただきます。

- 発達障害を持つ小学3年の女の子です。6年生の兄と二人兄妹です。
- 学力的には問題がないとされ、通常学級に所属しています。
- 病院には通っていますが、障害のことは本人に告知していません。
- 3歳半検診で受診を勧められ、幼稚園の先生の度重なる指摘もあり4歳の時に受診して診断を受けました。
- 身体の病気はなく、身体的な発達についての問題もありません。

あいちゃんの朝①



「起きなさい！」とお母さんが何度も叫ぶも起きません。

何度も何度も起こして、ようやく起きてきたのは8時過ぎ。

あら大変！！遅刻しちゃう！

あいちゃんの朝②



慌てて着替えて学校に行くも遅刻してしまい、その日の宿題も忘れて先生から大目玉・・・。

「あーあ、昨日頑張ってやったのになー。ついてない・・・。」

あいちゃんの授業中—国語編—①

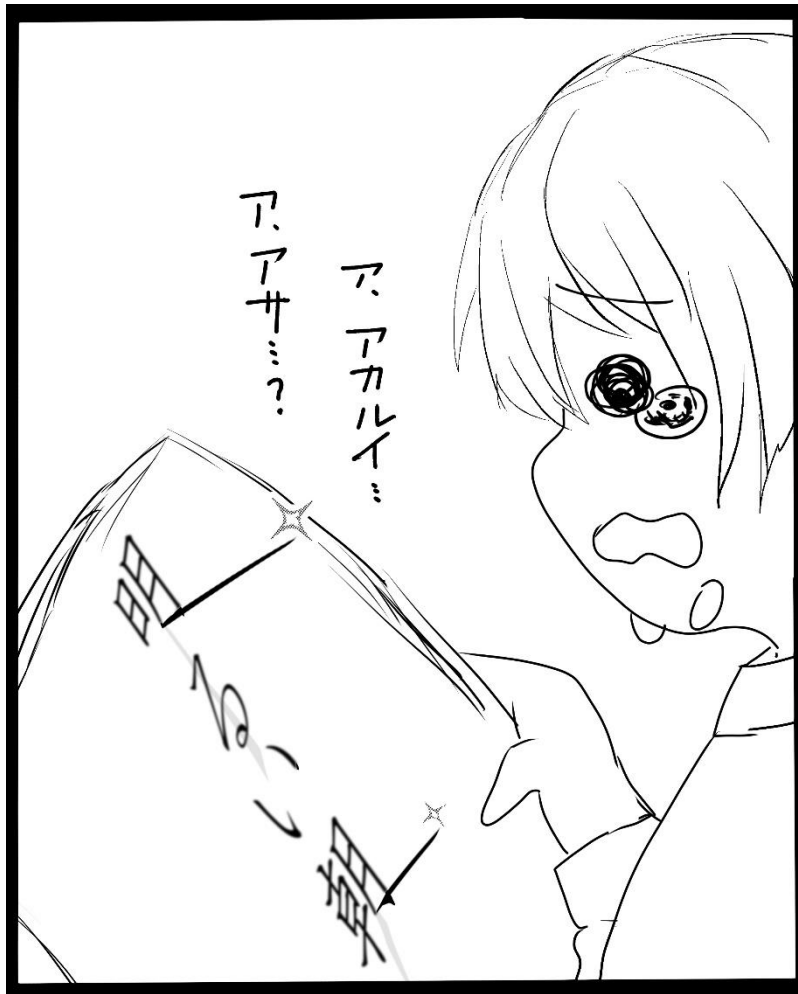


今日は1時間目から漢字テストです。

外では1年生が体育の授業。教室内は鉛筆の音や終わった子のおしゃべりの声が混ざって聞こえて集中ができないようです。

「うるさすぎて落ち着かないよお。昨日勉強したのに思い出せない。」

あいちゃんの授業中—国語編—②



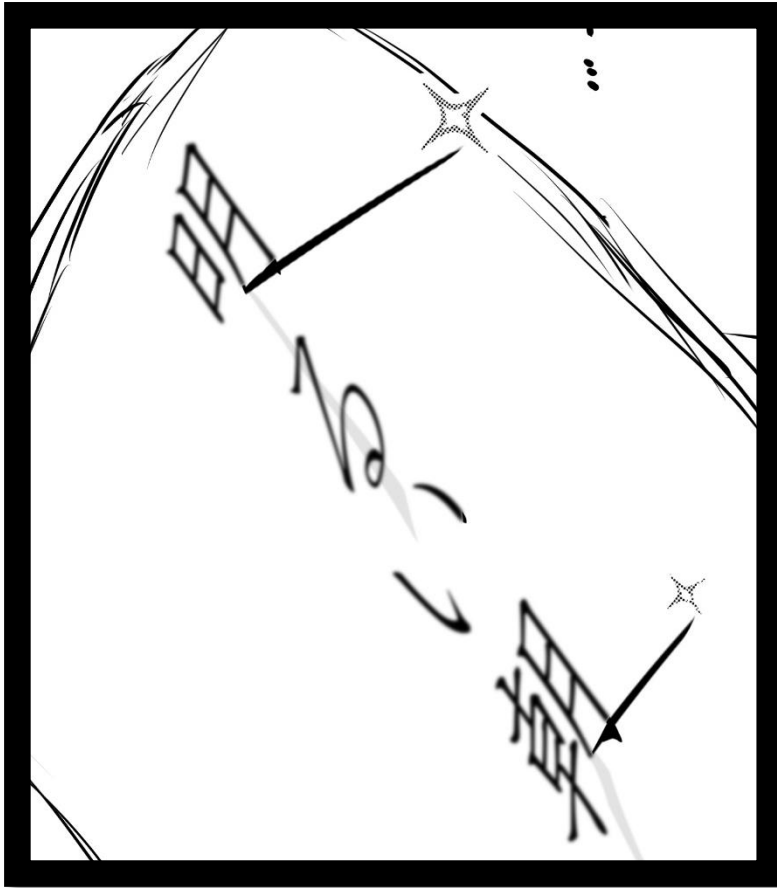
漢字テストが終わり、新しい単元の音読をするようです。

先生にあてられ音読をすることに。

「うわー、いやだいやだ！！」と心の中で叫びながら読もうとしますが、どうしても詰まってスラスラ読めない。

なぜかというと...

あいちゃんの授業中一国語編一③



「とげがこっちに飛んでくる!!」

教科書体のはらいの部分の先端が目飛び込んでくるように見えて、字として認識がうまくできないということがあいちゃんの中で起こっていたようです。

あいちゃんの授業中一体育編①



「はあ、やっと動ける！」

あいちゃんはジッとしてるのが苦手。体育の授業は動いていいので気持ちは楽だそうです。

走るのは得意ですが、今日は体育大会前で苦手なよさこいの練習。

「今日テストだっけ・・・。」

あいちゃんの授業中—体育編—②

②

音楽に合わせてソーラン節を踊るのですが、音楽に合わせて動くことができずテンポが遅れて

「ずれてる！もう一回やり直し！」

あいちゃんのいてるグループは毎回やり直し。



あいちゃんの授業中一体育編一③

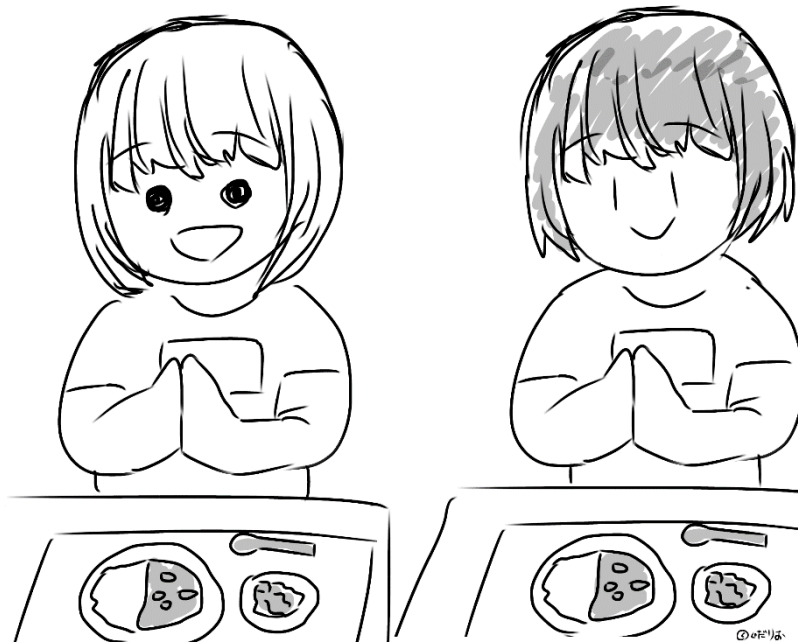


別のお友達が「あーあ、あいのせいでまたやり直しかよ。」とつぶやくのが聞こえ、あいちゃんはすごく落ち込みました。

「家でも頑張って練習してるのになぜできないんだろう・・・。」

あいちゃんの学校生活—給食編—①

いただきます!



「お腹すいたー。」

待ちに待った給食の時間です。

今日のメニューは小学生であれば好きであろうカレーです。

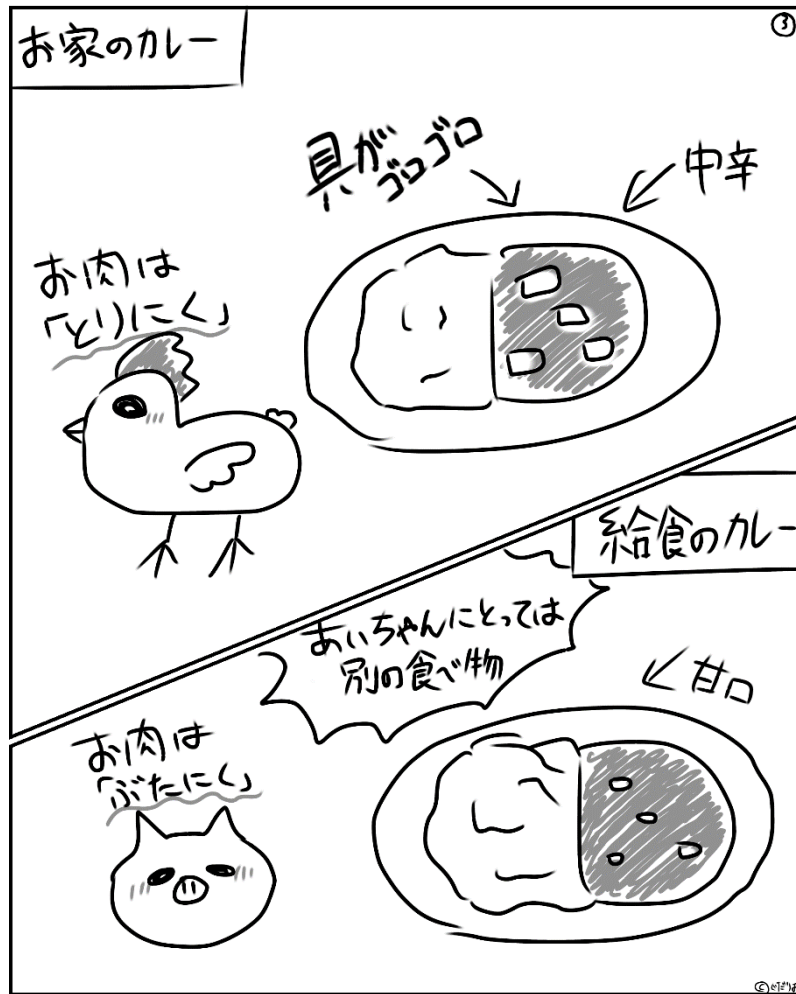
あいちゃんもカレーは好きなのですが...

あいちゃんの学校生活—給食編—②



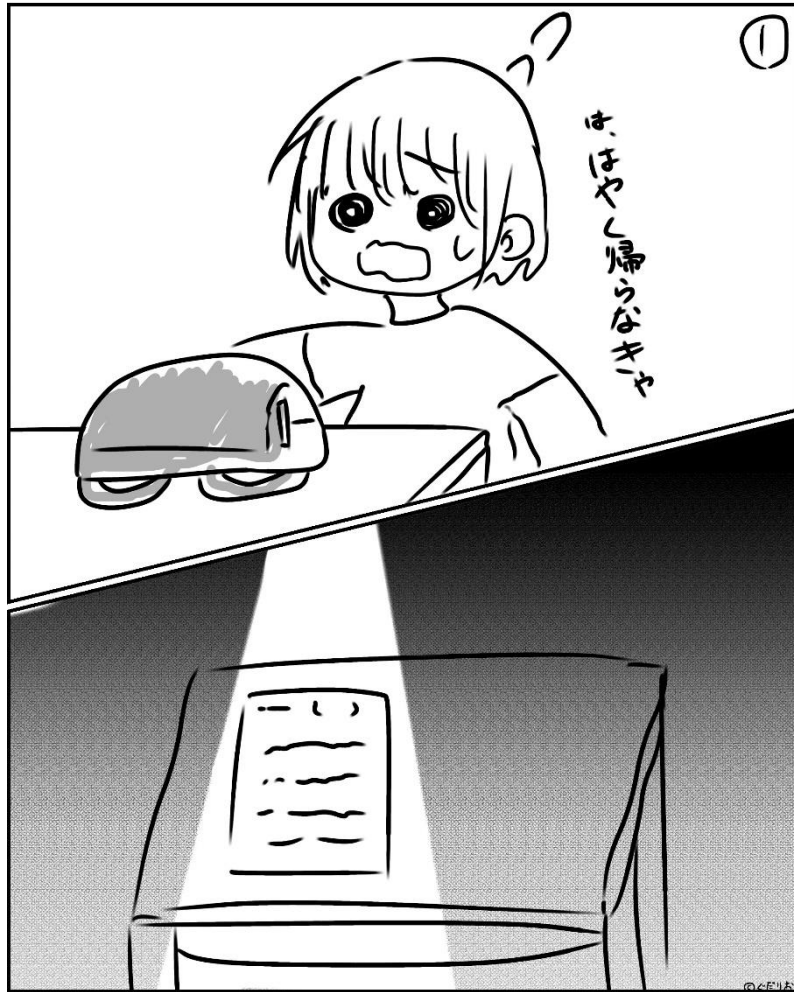
- ② 「これカレーじゃない。」
あいちゃんは家で作るカレー以外はカレーじゃないと思っています。
味覚が敏感で、学校の甘すぎるカレーは別の食べ物を食べてる感覚なんだそうです。

あいちゃんの学校生活—給食編—③



あいちゃん家のカレーは鶏肉でルーも中辛を使っていますが、学校のカレーは豚肉でルーも甘口。さらに具材の切り方もあいちゃん家はゴロゴロ大きく切ってますが、学校は細かく切られているのです。

あいちゃんの下校①

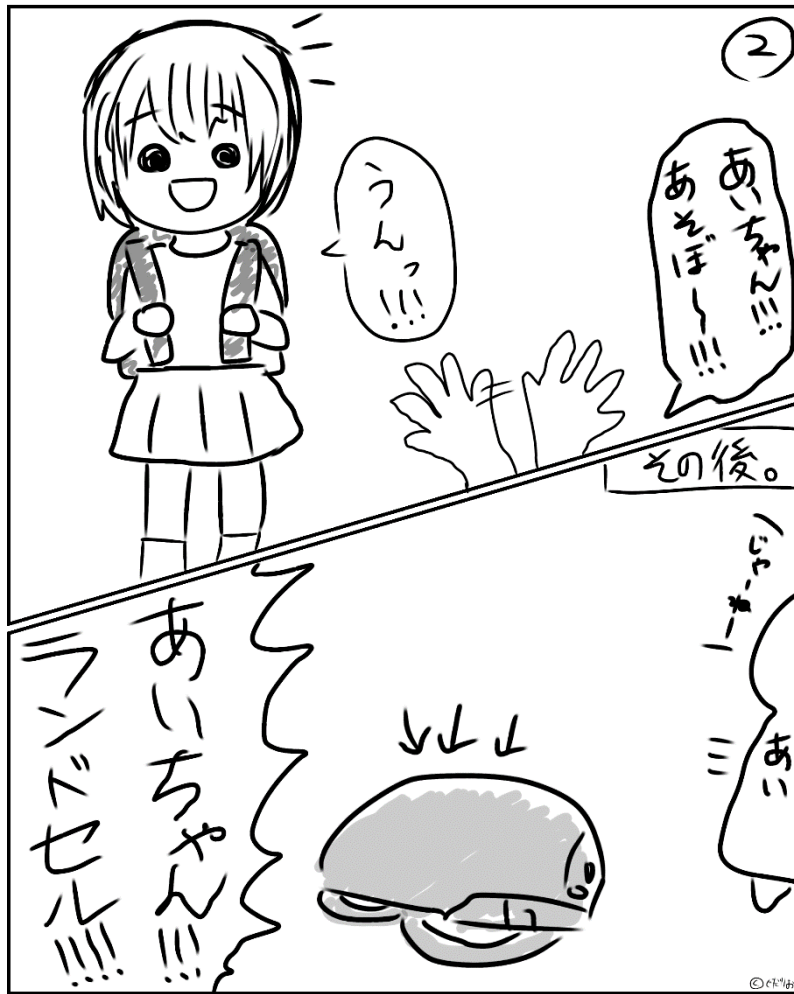


「先生さようなら。」

机の中の教科書を一気に
ランドセルへ詰め込んで、
ダッシュで帰ったのはよ
かったのですが...

おうちの人へ渡すプリント
を机の上に残して帰って
しまいました。

あいちゃんの下校②



帰ってる最中に友達に呼ばれて公園へ寄り道。30分ほど遊んで帰っていきましました。

「あいちゃん！ランドセル!!」

友達が叫ぶも間に合わず、結局友達がいちちゃん家へランドセルを届けるはめに…。

あいちゃんの下校③



「ただいま！」

あいちゃんが家に帰ってきました。

6年生のお兄ちゃんが玄関で出迎えたときにあいちゃんは顔が血だらけになっていました。

帰るときにこけて顔から地面へ突っ込んだのですが血が出ていることに気が付かなかったようです。

あいちゃんの家庭での勉強①



「明日の宿題しなきゃ。」
あいちゃんが宿題をしよう
としたのですが、国語の
教科書がとげとげで読め
ないのでお兄ちゃんに一
行ずつ読んでもらって別
のノートに写しているよう
です。

「お兄ちゃんありがとう。こ
れから宿題しなきゃ。」

あいちゃんの家庭での勉強②



「お兄ちゃん呼んでばかりだと大変だ。自分でやらなくちゃ。」

あいちゃんは残りの教科書を下敷きで読んでる行以外を隠しながら別のノートに明日の授業分を写していました。

別のノートに写すと内容が理解できるのですが、それを全教科でするので寝る時間が減ってしまうのです。

あいちゃんの家庭生活①



① 時間は夜の10時です。
「勉強熱心ねー。はやく寝なさいね。」

親御さんは熱心に勉強していると思っていたのですが、まさか教科書が読めないなんて思ってもいなかったのです。

「わたしかって早く寝たいわ……。なんでこんなんせなあかんの……。」

あいちゃんの家庭生活②



あいちゃんが眠さと格闘しながら教科書を写し、宿題を終えたのは日付が変わろうとしている頃でした。あいちゃんはベッドに行く気力もなく、そのまま机で眠ってしまいました。

当事者が求める教育現場での 合理的配慮とは

先ほどの「あいちゃんのいちにち」、現在学校に通われている当事者様からのインタビューと私の経験から教育現場における合理的配慮について考えていきたいと思います。

合理的配慮の話の前に、私が学校時代に
困っていたことをお話しします。

暗黙の了解という見えないルール

- 校則等の明記されているルールをかたくなに守ろうとして、周りと衝突する日々でした。
- 自宅では母が知ってか知らずかルールを単純かつハッキリさせていたので特に困ることはありませんでした。
- 一方、明記されていないルールに関しては全く理解が出来ず、守りなさいと言われると「書いてないじゃないですか！」といつも反論していたそうです。



健常者の世界においては、ルールが見える形で提示されるとは限らないということを知らないと中学生以降で生活に支障がでます。

矛盾との闘いだった日々

- いじめはいけないと言っている担任が平気で「お前さえいなかったら...」と生徒に暴言を浴びせていたのが原因で不登校に。
- 校則は守らなければいけないのに、忠実に守ると「そこまでやらなくても...」と言われる。
- 「うちに遊びに来てね」と言われて、実際に遊びに行くと怪訝な顔をされる。



人間には表の感情と裏の感情があるということが分からず、社会人になっても苦しみました。
健常者であれば自然に学べることでも言われないと全く理解できなかったのです。

感覚過敏との闘い

その他…

- 板書する音や運動場の声、教室中鳴り響く鉛筆の音で集中できず小学校低学年のうちには教室に45分座ってることが出来ませんでした。
- 制服や体操服の繊維が当たると痛みを感じて集中できませんでした。
- 給食の味付けが家より濃く感じるので、急いでかきこんで舌に触れないようにして食べていました。



辛かったですが、みんなも同じとまだ思っていたために我慢しているうちに小学校高学年に差し掛かったころから体調を頻繁に崩すようになりました。

忘れ物、なくしものの連続

- 宿題をやってもランドセルに入れ忘れる。
- 時にはランドセルごと学校や通学路に忘れることも。
- プリントをもらっても机の中にしまうと持って帰るのを忘れる。
- 学校時代の最悪な忘れ物は高校の願書。危うく受験ができなくなるところでした。



今思えば短期記憶がものすごく弱いから起きてたことでも、原因が分からず対策もとれなかったことから、取れたはずの成績を棒に振ることになりました。

すみません、私は大学に行っていないので
大学で困ることは予測付きません。
ここから先は発達障害を持つ現役の大学生
にインタビューしたことをまとめてみました。

私たちこんなことで困ってますー大学生編ー

- 授業や卒論のスケジュールが組めない
- プライベートとの折り合いが付けられない
- 必要単位数の計算ができなくて、必修科目の単位数が足りなくて留年した
- テーマの意図が読めず、的外れなことを書いてしまい、レポートで何回も再提出になっている
- 教室にたくさん人がいすぎて講義に集中できない
- 実習でコミュニケーションが取れていないと指摘を受ける
- 学内での支援を申し入れても「できない」と断られ、スクールカウンセラーから中退することを勧められた



大学では自分で選択することや自分の考えを述べる機会が増える分、発達障害を持つ人が学ぶのに障壁になる部分が増えるのではとインタビューを聞いて思いました。

私が学校生活で思っていたこと

- 学校と家、両方に教科書が置けたらいいのに
- 教科書からとげが出てこなければいいのに
- 黒板を写真で写せたらいいのに
- 制服なんてなければいいのに
- もっとクラスの人数が少なかったらいいのに
- 先生、もう少しゆっくりしゃべって
- 「もっと頑張れ」・・・これ以上何を頑張ればいいのか？
- 「すごい勉強できるのにこんなこともできないのか？」って言わないでほしい。

次のスライドでは、この中で私が高校を卒業してから今までで現在の教育現場で願いがかなっていることを挙げてみます。

教育現場で現在行われている合理的配慮①

まず、小学校から高等学校で行われている配慮です。

- 学校と家、両方に教科書が置けたらいいのに
- 教科書からとげが出てこなければいいのに
- 黒板を写真で写せたらいいのに

⇒タブレットやデジタル教材の活用で可能になっています。



例:DAISY(デージー)

タブレット端末を用いて「読むこと」を支援するアプリ。
読んでいるところにハイライトがついたり、読むスピード
を変えることも可能。

- もっとクラスの人数が少なかったらいいのに

⇒少人数教室を設けている学校も増えてきています。

教育現場で現在行われている合理的配慮②

次に、大学で行われている配慮です。

- 学内コーディネーターが常にいるので相談が出来る
- 授業のスケジュールを学生課で相談すれば組んでもらえる
- 診断書の提出があれば試験時間の延長や別室受験ができる
- レポートのテーマが決められないので、教授と相談して具体的に決めてもらってから書いている
- 講義にICレコーダーの持ち込み許可をもらっている
- 字が書けないのでテストはタブレットで入力して回答している

大学側からのサポートはお聞きできた限りではこれだけですが、他にも友人にサポートをもらっているという方もいらっしゃいました。

そもそも合理的配慮とは・・・

まず合理的配慮って何？っていうことから。

【合理的配慮】

障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。

(文部科学省HP

特別支援教育の在り方に関する特別委員会(第3回) 配付資料 3:合理的配慮について

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1297380.htmより抜粋)

とされていますが、もう少し簡単に言うと

「障がい者も健常者もお互いに負担にならない程度で物事をできるようにするにはどうすればいいのかを考えてながらやってください」

ってことです。

合理的配慮を退けられる現実

講演前に現在小学生から大学生の当事者とその保護者様からインタビューでお伺いしました。その中から今現実に関わっていることを紹介させていただきます。

- 文字が書きうつせないので個人持ちでタブレットの使用を診断書を持って行き、学校や教育委員会にお願いしたものの健常児との公平性に欠けると言われ頑なに断られました。以後、授業についていけなくなり不登校になりました。(小学生のお母さまから)

⇒個人で購入して一定のルール下で使うのであれば、学習の機会を奪わず合理的配慮に値すると思います。

そもそもノートを書せないという時点で公平性に欠けると私は考えます。

合理的配慮を退けられる理由

—勘違い合理的配慮—①

先ほどのタブレットの使用を断られた小学生の例を取って、合理的配慮を間違った解釈で適応するとこうなります。

- タブレットみたいな高価なものを小学校に持ってくるなんてとんでもないし、持ってこれない子もいるので公平ではない。
- かといって全導入にすると予算もないし、使えない教員も出てくるので導入を阻止したい
- 一人だけタブレットつかって健常児にずるいといわれそう
- どうせなら健常児と同じようにできるよう指導すべき
- ずるいと健常児から言われると指導が面倒くさい

⇒断ることで公平性を保ち、過度の負担を課さないようにしていると勘違いしていると思われます

では、もう一度資料の文を読み直してみましょう。

合理的配慮を退けられる理由

一勘違い合理的配慮一②

文字が書き写せない小学生のタブレット導入が合理的配慮にあたる理由を資料の文に照らし合わせると

- ・ 障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整

⇒文字がノートに写せないので、タブレットでノートを取ることで学習ができるようにしてほしい。

- ・ 特定の場合において必要とされるものかつ均衡を失した又は過度の負担を課さないもの

⇒タブレットを使用すれば、この小学生が一人でノートを取ることができ、一人で学習に取り組めるので教員や周りの児童に過度の負担を課さないと思われる。

となります。

合理的配慮とは言うけれど・・・①

そんなに難しく考えなくてもいいんです。

合理的配慮って

「視力を補うのにメガネ、足を骨折した人の
松葉杖みたいなもの」

だと私は考えます。

合理的配慮とは言うけれど・・・②

黒板見えにくかったらメガネかけるように、文字書けなくて自分でノート取りたければパソコンでもタブレットでも使える手段でノートを取ればいいんです。

私たち当事者が欲しい合理的配慮は

「自分のできないことをほかの手段で補ってでも自分でできるようになる仕組み」

なんです。

合理的配慮とは言うけれど・・・③

そんな仕組みを

社会全体が持てるよう、大人の私たちが
子供たちへ教育していく時期にきている

と私は考えています。

今日の講演が先生方が教育現場へ帰って、何が子供たちにとっての「めがね」になるのかを考える参考になればと願います。

ご清聴ありがとうございました。

Special Thanks!!

- インタビューに答えて下さった当事者様
A・O様(現在大学生・小学生から現在)
N・Y様(現在社会人・中学生時代)
T・K様(現在社会人・大学時代)
K・S様(現在大学生・小学生から現在) その他6名
- インタビューに答えて下さった保護者様
K・K様(現在小学生の保護者様)
S・K様(現在中学生の保護者様) その他3名
- 「あいちゃんのいちにち」 イラスト提供
ぐだりお様(イラストレーター)

ご協力ありがとうございました。